

となりでひとり。となりとふたり。

一段差が奏でる、ふたつの暮らしー

“未来の二世帯住宅のあり方”とは。非血縁関係同士での二世帯住宅の可能性は。仕事・家事・育児を一人で抱え込まない社会へ。共に暮らし支え合いながら、親子皆んなで成長していく。そんな居場所の提案である。

所在地：渋谷区代々木 4-3-16
 延べ床面積 154.072 m²
 建築面積：75.333 m²
 建ぺい率：57.95%
 建築用途：第二種低層住居専用地域
 準防火地域



北側模型写真

01 設計敷地



渋谷区代々木の住宅街に位置する。本敷地は隣接する公園よりも1m高く目線のずれにより絶妙にプライバシーが確保される。この敷地の特徴は今回の設計において重要な意味をもつと考える。

02 クライアント

母 (32) 娘 (2)
 母は都庁勤めの公務員として日中勤務。娘は保育園に通っている。基本残業はなく勤務場所も近い。

母 (34) 息子 (4)
 母はイラストレーターのため勤務時間が自由でばらつきがある。息子は保育園に通っている。

二世帯の要望：協力し合い楽しく生活できる家を第一に考え、血の繋がりがなくても家族のように感じれる距離感を作って欲しい。

“非血縁関係そして二世帯共にシングルマザー”

03 設計趣旨

二世帯住宅＝親世帯と子世帯の同居という固定観念は多様化が進む現代社会において本当に機能しているのだろうか。核家族化の進行による子供の孤立や親の負担の増大といった様々な課題があり、特にシングルマザー世帯ではこれらの課題が浮き彫りとなっている。

一人親はとても負担が大きい。仕事、家事、育児、全ての両立が求められる。身近に協力しあえる家族のような存在が居れば生活はどう変わるのだろうか。血縁関係に限らず、互いを見守り合い助け合う新たな居住の形を創り出す。

04 設計手法－1

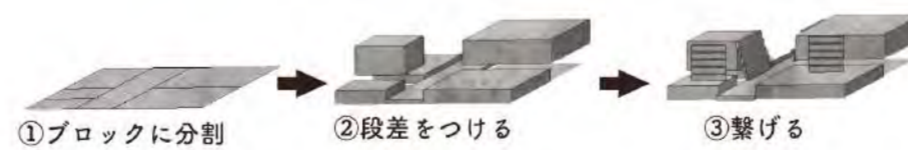
『にじむ距離感』



心地よく暮らせる距離感とは。同じ空間では共存し、たった一枚の壁で隔たる。異なる高さに位置することで気配がにじむ。

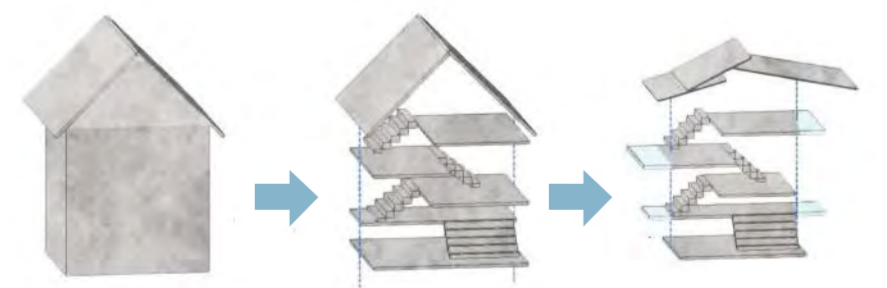
05 設計手法－2

『スキップフロアーをめぐらせる』



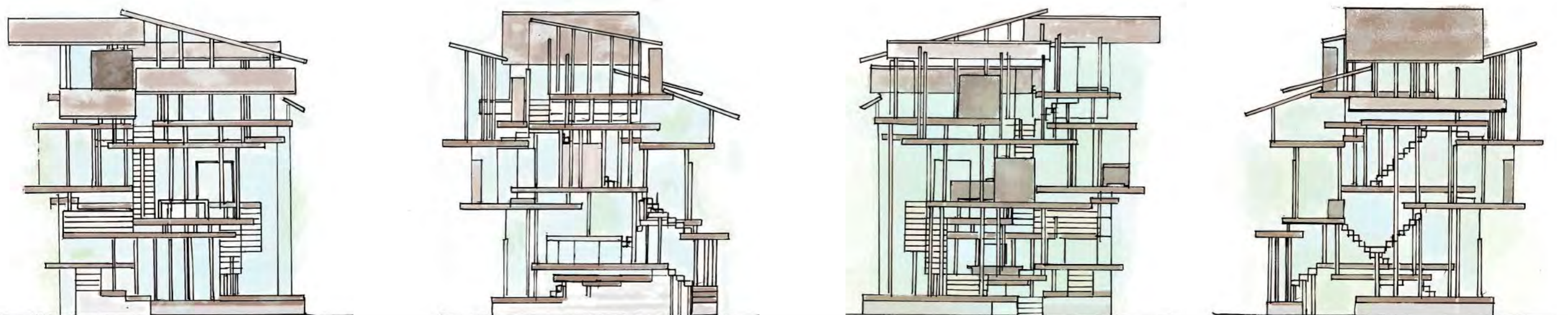
「住宅＝箱」の概念を捨て、部屋ごとのブロックで捉える。リズムをつけることで異なる空間を生み出す。そして空間を階段で繋ぐ。

06 設計手法－3



床をずらすことで、視線や音、生活リズムも自然とずれる。これが二世帯が共に暮らしながらも、互いのリズムを守るための鍵になるのだ。

07 立面計画 S=1/150



北立面図

東立面図

南立面図

西立面図

0 1 5 10(m)



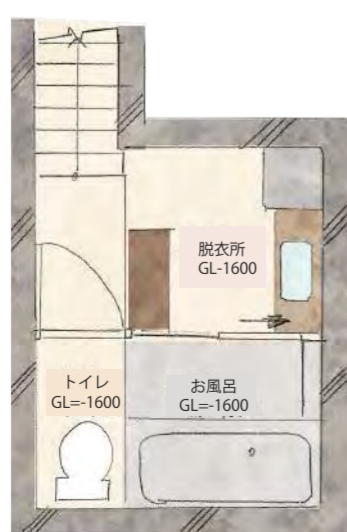
三階平面図



二階平面図



配置図兼一階平面図



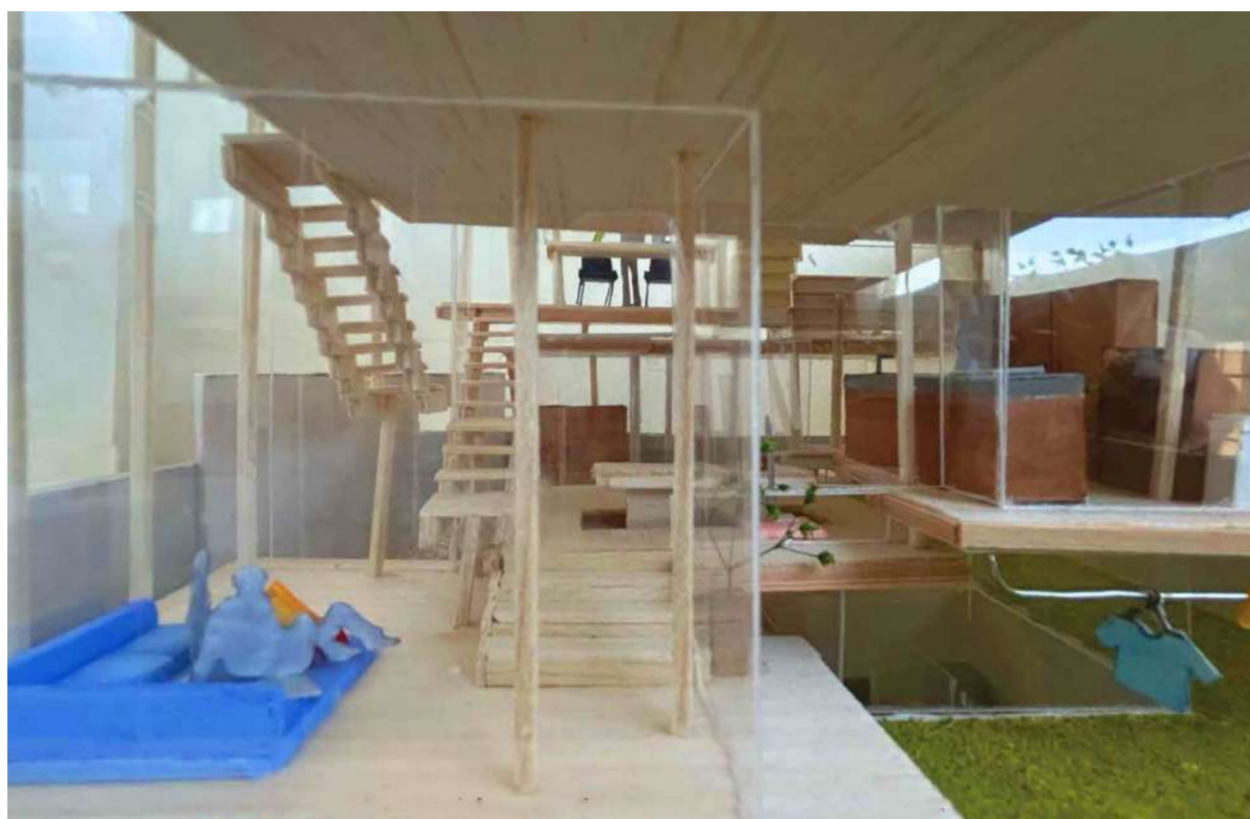
地下一階平面図



寝室2をみる。階段や家具によって何気ない個室空間が存在する。狭い部屋でもベッドの高さをだすことで収納スペースを確保した。そして道路からの視線も避けられる工夫の一つだ。



トイレやお風呂などのプライバシーの確保と共に自然光が入り込む明るい地下である。また、スラブの高さのズレが生み出した、物干し竿は太陽の光が燦々と降り注ぐ場所だ。

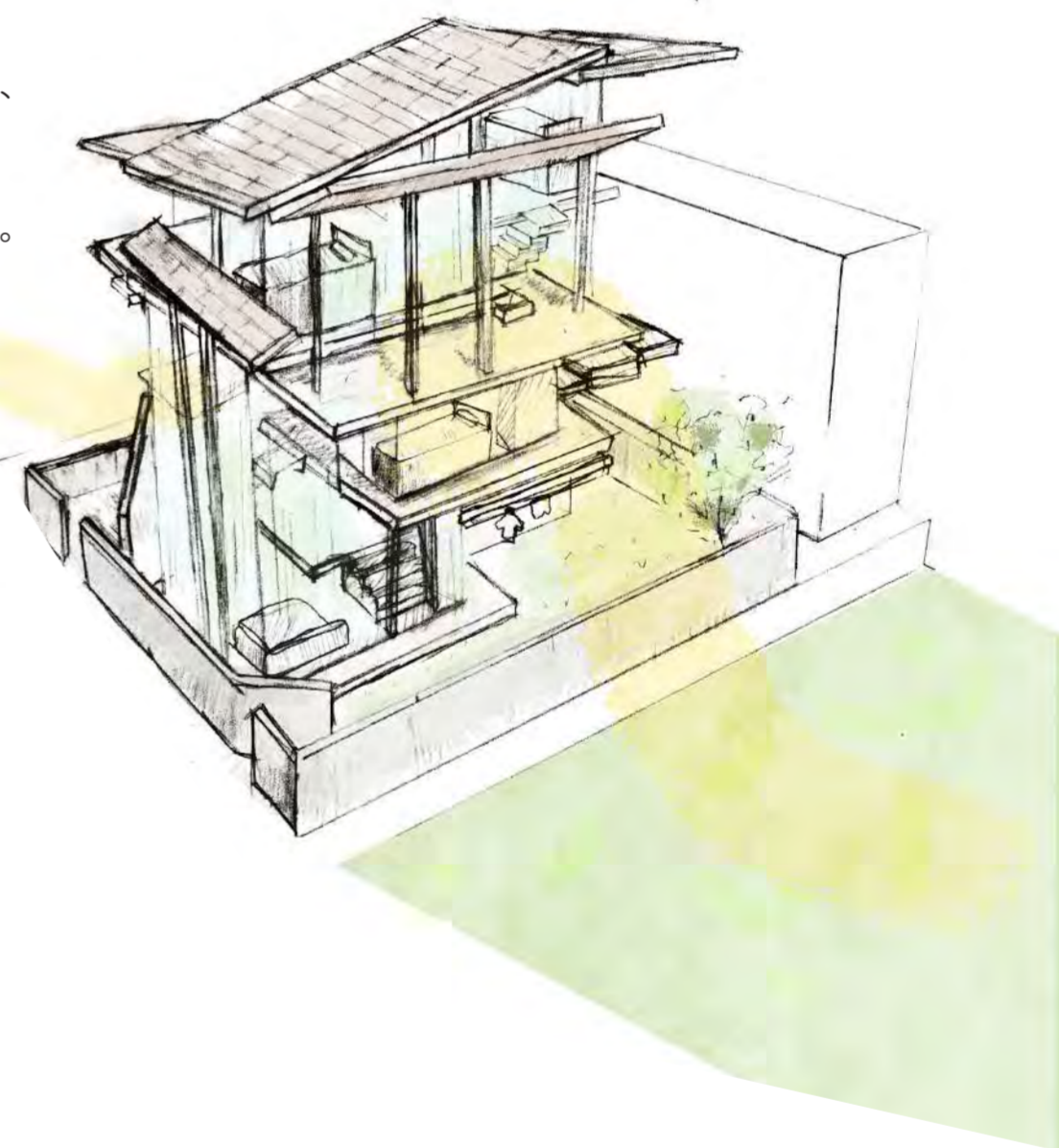


リビング、キッチンそしてダイニングその先にはワークスペースがあり、全ての空間が一続きでありながらも断面的なずれによりリビングの気配、ダイニングの気配、全ての気配が連続的に、にじんで届く。

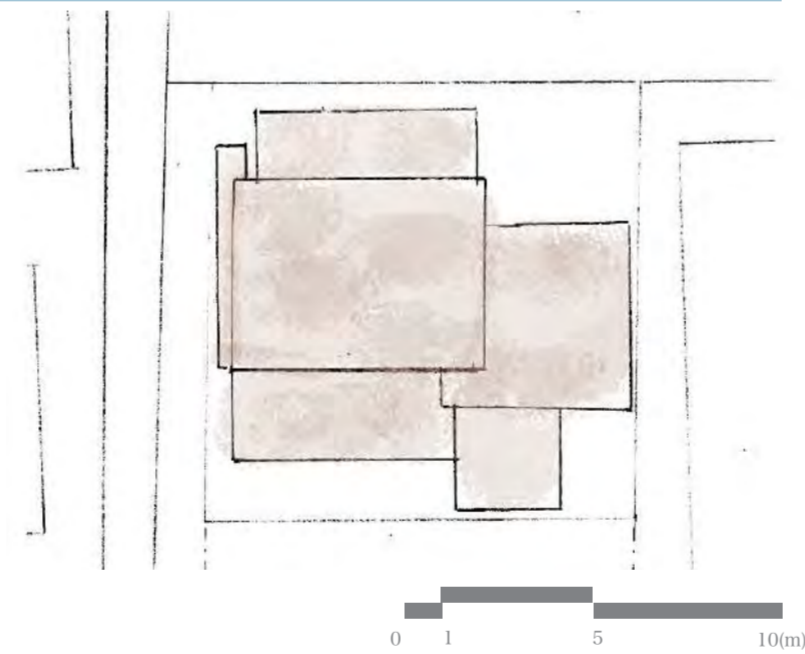


フロアソファで子供が遊び、ダイニングにはお茶を嗜む母。話そうとすれば声が届くそんな距離感だ。

内装プランだけでなく、建築全体に床の存在を落とし込み床で建つ家。



10 屋根計画 1/200



11 断面計画 1/100

